

第4学年 国語科学習指導案

児童 4年1組 男14名 女12名
指導者 渡辺 信子
場所 あさかげホール

司会者や参加者の役割を考えながら、

城南「至誠」大作戦の話し合いをしよう

話題 「城南『至誠』大作戦の話合いをしよう」
補助学習材 「話し合って決めよう」（光村図書4年下）

<育てたい主となる能力>

◎互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。（話・聞オ）

<主となる言語活動>

◎司会者や参加者の役割に合った話し方を工夫し、互いの意見の共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って学級全体でよりよい意見にまとめる話し合いをする。

1 子どもと単元について

(1) 学習者観

子どもたちは、「話すこと・聞くこと」の学習として、光村図書3年下教材「名前をつけよう」で互いの共通点や相違点を明らかにして話し合うことを学習してきている。また、東京書籍4年上「電話で伝え合おう」で、大事な事柄をまとめて話したり、メモを取りながら聞いたりすることを、光村図書4年上『『伝え合う』ということ』でコミュニケーションとして言葉を使うことを意識的に学習し、言葉によって自分の考えを伝える必要性を実感している。日常的には、朝の会の「対話タイム」で、相手の話を共感的に受け止めて質問をしたり、感想を述べたりし、互いの考えを伝え合う活動の楽しさを実感できるようになってきている。他教科では、特に学級活動の時間に、議長や書記などの役割を決めて月の生活目標の反省や、係や当番活動を決める話し合いをし、自治的な活動に取り組んでいる。

これらの活動を通して、自分の考えを伝える楽しさを味わったり、みんなで意見を交流し合ったりして新たによりよい考えが創造されることで、自分たちの生活がよくなることを実感し、話し合うことや伝え合うことの必然性を実感している。また、一人一人が意見を出し合い、全員発言をして自分たちの力で問題を解決できるようになりたいという願いをもっており、上手な話し合いの仕方を身に付けたいと願っている子どもが多い。

(2) 学習材観

本単元「司会者や参加者の役割を考えながら、城南『至誠』大作戦の話し合いをしよう」は、司会者や参加者の役割を果たす話し方を工夫し、互いの意見の共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って学級全体でよりよい意見にまとめる話し合いをすることをねらいとしている。『至誠』は、本校の校訓であり、「思いやり・まごころを尽くす」という意味がある。本校で取り組んでいる活動の中に、11月は「VS月間」として、各学年や学級で全校のためにできるボランティアを考えて実行したり、「勤労感謝の日」に合わせて日頃お世話になっている方々にお礼をしたり、感謝の気持ちを伝えたりする活動を行っている。今回「話し合う」という学習を行う時、話し合ったことを実の場に生かすことで、話し合うことの意義やよさを子どもたち自身が実感し、もっと上手に話し合うことができるようになりたいという意欲付けにもつながると考え、本単元を設定した。

本単元は、問題解決に向けて「絞り込む」話し合いの時、司会者や参加者は、どのような場面でどんな言葉を用いて話したらよいか、具体的なモデルを示し、学習を進めていく。「話し合うこと」の指導事項としてうたわれている「役割を果たす」ための手だてとして、子どもたちに実際の話し方を具体的に示すことで、自分たちの決めた話題について話し合う時の話し合いの「手引き」としても活用でき、話し合う力を付ける材料となると考えた。また、教科書学習材「話し合って決めよう」は、互いの考えの相違点を意見でまとめる力を付けるための教材として位置付け、よりよい意見にまとめる話し合いの確かな力を付けていきたいと考えた。

(3) 学習指導観

指導に当たっては、以下の点に留意していく。

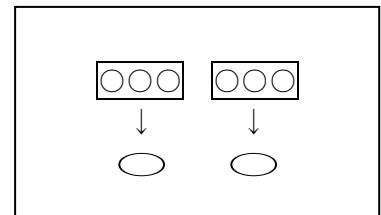
初めに、学級活動の時間に設定されている「まごころを伝えよう」から「城南『至誠』大作戦」を実行していく話し合いをする。普段お世話になっている方々の中から、作戦実行の相手を教師以外と限定し、相手意識を明確にもたせ、学級として4人の方々に自分たちの思い伝えていくことを決定する。話し合いの進行は、普段の学級会のように行うが、その時、話し合いの仕方の改善点を子ども自身に見つけさせ、大作戦成功のために、意見をまとめる話し合いの仕方を身に付ける必然性を実感させる。

第1次では、話し合いのモデルを基に司会者や参加者などの役割について知る学習を行う。ロールプレイングをしながらよい話し合いの仕方を体感し、意見をまとめるための話し合いの時に気を付けることや、話し合いの進め方を理解させる。このとき、司会者や参加者の役割は何かを明確にし、自分がどちらの役割になっても話し合いができるようになることを確認し、意欲付けを図る。

司会者・・・	①それぞれの考えを反映させながら話し合いがまとまるように発言を整理し、意見を促し、まとめる。 ②共通点や相違点は「理由」で整理する。
参加者・・・	①進行に合わせて自分の意見を積極的に述べる。 ②話題について複数の意見を考え、どれが1番よいか、相手を納得させる根拠をもって述べるようにする。 ③意見を言う時は、内容を整理し、話し方に注意して述べる。 ④相手の意見と自分の考えを比べて発言することから始め、異なる意見同士を分類、比較し、整理してよりよい意見にするように述べる。

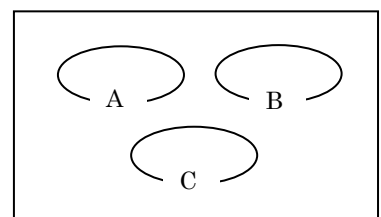
更に、教科書の話し合いの例を基に、話し合いの意見のまとめ方を理解し、グループごとに話し合いの練習をする。

第2次では、3人の方々への大作戦について、小グループで話し合った意見を全体でまとめる話し合いをしていく。始めは、4～5人のグループ（三つ）それぞれの意見を13人のグループでまとめる話し合いをする。【図1】次は、8～9人のグループで意見をまとめる話し合いをする。【図2】最後は、4～5人のグループ（六つ）の意見を学級全体でまとめる話し合いをする。【図3】グループ同士でペアを作り、



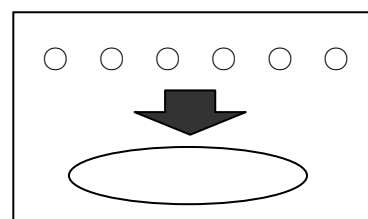
【図1】

各グループの話し合いを互いに見合い、「それぞれの役割を果たすことができていたか。」「意見をまとめる話し合いができていたか。」の評価をし、単位時間終末には自己評価も加え、全体として話し合いのレベルが上がっていくように進めていく。本段階では、話し合う人数や話題を変えることで、「司会者や参加者の役割を果たす」ことを経験させ、意見をまとめる話し合いを反復する。それにより、基礎的基本的な知識・技能の習得を図り、活用に結び付けたいと考える。小グループでの話し合いの前には、話題について自分の考えをもつ時間を確保し、



【図2】

自信をもって自分の考えを発言できるようにさせていく。複数の中から選択できるように、インタビューをして情報を集めたり、家の人と相談したりしてもよいこととし、提案を裏付ける根拠があることで、説得力が増すことも認識させていく。話し合いの中では、意見をカードに書き、それらを操作しながら話し合いを進めていく。そのことで、「まとめる」ということを視覚的にも分かりやすくし、進行に沿って話し合いができるようにさせていく。



【図3】

第3次では、第2次までに習得した話し合う力を活用し、1人の方への大作戦について4～5人のグループ（六つ）で話し合った意見を、学級全体でよりよい意見にまとめる話し合いをする。話し合い後に自己評価・相互評価をし、学習の振り返りの話し合いをする。

第4次では、話し合いによって決まったそれぞれの方々への作戦を、他教科・課外時間を使って実行後、単元を振り返る話し合いをする。話し合ったことが実の場に生き、話し合いのよさを実感した後に振り返ることによって、自分に身に付いた力を認知し、次時以降の学習への意欲付けとなると思われる。

(4) 教科等の学習や日常生活への活用例

- ・ 討論，討議などにより意見の異なる人を説得したり協同的に議論して集団としての意見をまとめたりする。（道徳・特別活動）
- ・ グループによる話し合い（各教科）
- ・ 日常生活での問題解決のための話し合い（学級・学年）

2 学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	◎互いの考えを伝え合い，よりよい意見にまとめるために進んで話し合おうとする。	・自分たちの感謝の気持ちを伝えるために，よりよい意見にまとめながら進んで話し合おうとしている。
話す・聞く能力	◎互いの考えの共通点や相違点を考え，司会者や参加者の役割を果たしながら，よりよい意見にまとめるように進行に沿って話し合うことができる。 (話・聞オ)	・話題について互いの考えの共通点や相違点を考え，司会者や参加者の役割を果たしながら，よりよい意見にまとめるように進行に沿って話し合っている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○話し合いをする時の適切な語句の使い方を理解することができる。 (イ(オ))	・話し合いをする時，自分の考えを述べるのに適切な語句の使い方を理解している。

3 学習指導計画（全7時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

学級活動

「まごころを伝えよう」の話し合いをする。（1時間）

「城南『至誠』大作戦」を計画する話し合いをし、自分たちに必要な話し合いの技術を高める課題意識をもつ。

<評価> _____
課題意識をもつことができたか。
《話し合いの様子》

第1次

司会者や参加者などの役割について知り、意見をまとめる話し合いの方法をつかむ。（2時間）

- ① 話し合いのモデルを基に、司会者や参加者などの役割について知り、意見をまとめるための話し合いの時に気を付けることと話し合いの進め方を理解する。
- ② 教科書の例を基に、話し合いの意見のまとめ方を理解する。

<評価> _____
① 話し合いのモデルを基に、司会者や参加者などの役割について知り、意見をまとめるための話し合いの時に気を付けることと話し合いの進め方を理解している。《発言・ワークシート》
② 意見を理由でまとめる方法を理解している。《発言・ワークシート》

前学年で習得した共通点、相違点を考える知識・技能を活用し、意見を分類・整理する。

第2次

グループで役割を決め、互いの考えの共通点や相違点を考え、よりよい意見にまとめながら進行に沿って話し合う。（3時間）

- ③ 司会者や参加者の役割を果たしながら、兄弟学年へ感謝の思いを伝える方法を話し合う。（小グループ→中グループ）
- ④ 司会者や参加者の役割を果たしながら、お世話になった方へ感謝の思いを伝える方法を話し合う。（中グループ内でまとめる）
- ⑤ 司会者や参加者の役割を果たしながら、地域の方へ感謝の思いを伝える方法を話し合う。（小グループ→学級全体）

<評価> _____
③④⑤それぞれの役割を考えながら、互いの意見の共通点や相違点を整理し、まとめ、その共通点に合う案を出しながら、意見をまとめる話し合いをしている。《話し合いの様子・テープ・ワークシート》

本単元第1次の学習で学んだ話し合いの仕方の知識・技能を活用して、グループで話題について話し合う。

第3次

それぞれの役割を果たし、互いの考えの共通点や相違点を考え、学級全体でよりよい意見にまとめながら進行に沿って話し合う。（1時間）

- ⑥ 互いの考えの共通点や相違点を考え、グループの提案を基に、学級全体でお話ボランティア「ぐるーぷ・ねこの手」(*)さんへ感謝の思いを伝える方法を話し合う。（本時）

<評価> _____
⑥ それぞれの役割を果たし、互いの考えの共通点や相違点を整理し、まとめ、その共通点に合う案を出しながら学級全体で意見をまとめる話し合いをしている。《話し合いの様子・ビデオ・ワークシート》

本単元第2次の学習で学んだ話し合いの仕方の知識・技能を活用して、学級全体で話題について話し合う。

(*) 児童に本の読み聞かせをしたり、図書館の本の修理をしたりする活動を行っている本校 PTA のサークル。

学級活動・課外

城南「至誠」大作戦を実行する。

第4次

単元の振り返りをする。（1時間）

- ⑦ 単元の振り返りをし、自己評価・相互評価をする。

<評価> _____
⑦ 単元の振り返りをし、学びの自覚をしている。《発言・ワークシート》

4 本時の指導

(1) ねらい

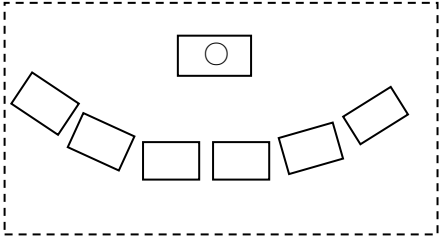
司会者や参加者の役割を考えながら、学級全体でお話ボランティア「ぐる一ふ・ねこの手」さんへの感謝の思いを伝える方法について、よりよい意見にまとめながら進行に沿って話し合うことができる。

(2) 既習の知識・技能を活用する言語活動

本単元前時までの学習では、司会者や参加者の役割を考えて小グループで共通点や相違点を考え進行に沿って話し合うことができた。そこで学んだ話し合いの仕方の知識・技能を生かし、学級全体で、お話ボランティア「ぐる一ふ・ねこの手」さんへ感謝の思いを伝えるためのよりよい意見にまとめる話し合いをする。

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	聴	指導上の留意点
つかむ	1 前時を想起し、本時の学習課題を確認する。 (2分) よりよい意見にまとめながら、ねこの手さんへの「至誠」大作戦の話し合いをしよう。	全	○至誠大作戦をするために、どんな話し合いをしてきたかを確認し、単元の中における本時の位置付けを図る。 ○児童の司会により課題把握までを児童主体で行う。
	2 課題解決の見通しをもつ。 (1分)		○相手意識をもち、何について話し合うのか前時までとの違いを明確にし、見通しをもたせる。
ねこの手さんへの感謝の思いを伝える方法について話し合う	3 学習課題を解決する。 (1) 話し合いの仕方について気を付けることを確認する。 《話し合いのポイント》 (3分) 司会者・意見を理由で整理し、よりよい意見にまとめるように進行する。 参加者・互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞いたり、根拠をもって自分の意見を述べたりして、よりよい意見にまとめるよう話し合いの進行に協力する。 意見をまとめる・話し合いの柱を意識し、理由に着目してよりよい意見にする。 《話し合いの柱》 ・今までにやったことがないこと ・喜んでいただけること ・短時間でできること	全	「意見をまとめる話し合いで、気を付けることはどんなことでしたか。」 ○前時までに学習した意見をまとめる（絞り込む）話し合いで気を付けることについて全体で確認する。 ・司会者や参加者の役割を果たす話し方をする。 ・共通点や相違点を考え、意見を理由で整理する。 ・話し合いの柱を意識し、よりよい意見にまとめる。 ○意見をまとめる話し合いで気を付けることを受けて、それぞれの役割が特に気を付けること、絞り込む話し合いで大切なことを《話し合いのポイント》で確認する。 ○話し合いの仕方のポイントを確認することにより、前時までに習得した知識・技能を生かして話し合うことを子どもに認識させ、身に付けた力を話し合いのどの場面で生かすのか見通しをもたせる。 ○話し合いの柱は、大作戦決定の時の必要条件であることを確認し、話し合いの方向性を意識させる。
	(2)グループで話し合いをする。 (10分) (3)学級全体で話し合いをする。 《話し合いの流れ》 (18分) 1 開会 2 自己紹介 (司会者・書記・計時) 3 話し合いのめあての確認 4 話題の確認 5 話し合いの柱の確認	グ 全	「グループで意見をまとめる話し合いをしましょう。」 ○司会者1人、参加者の役割に分かれ、場の設定をする。 ○進行表（話し合いの手引き）に基づき、話し合いを進めさせる。 ○意見カードを操作しながらグループとしての意見を決め、全体で話し合う時のグループ意見カードを作成させる。 「ねこの手さんが喜ぶような作戦になるように、話し合いましょう。」 ○グループで決まったことを提案者が発表する。その際、根拠をもって述べることと、自分達の考えについて聞いている人に分かりやすく話すようにする。 ○あらかじめ書いておいたグループの意見カードを操作し、意見の分類、整理が視覚的に分かるようにする。 ○話し合いの中にグループでの話し合いを取り入れたり、考えを見直す時間などを取り入れたりして、今まで身に付けた

	<p>6 話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見の出し合い ・共通点相違点の見つけ合い ・よりよい意見への深め合い <p>7 決まったことの確認</p> <p>8 振り返り（司会者から）</p> <p>9 閉会</p> <p>《場の設定》</p> 	<p>「話す・聞く」に関わる力を生かしてよりよい意見にまとめる話し合いができるようにする。</p> <p>○話し合いが止まった時は、手引きを見直させたり、話し合いの柱に沿って進んでいるかを確認させたりして、適宜支援する。</p> <p><評価></p> <p>A 自分の立場をはっきりさせて役割に合った話し方をし、進行に沿って話し合いをまとめるような意見を出して話し合いをしている。</p> <p>B 自分の役割にあった話し方をし、互いの考えの共通点や相違点を見つけ、進行に沿ってよりよい意見にまとめる話し合いをしている。</p> <p>C への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの手引きを基に話すことを助言する。 ・共通点や相違点を明らかにする手助けをするため、出された考えの言葉に着目するよう助言する。 <p><話し合い・ビデオ・ワークシート></p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p>	<p>4 学習を振り返る。</p> <p>(1)自己評価をする。 (5分)</p> <p>・司会者や参加者の役割を果たす話し方をする。</p> <p>・共通点や相違点を考え、意見を理由で整理する。</p> <p>・話し合いの柱を意識し、よりよい意見にまとめる。</p> <p>(2)振り返りの相互交流をする。 (5分)</p> <p>5 次時の学習内容を確認する。 (1分)</p>	<p>個</p> <p>○本時の話し合いに入る前に確認した話し合いの仕方のポイントに沿って振り返りをさせる。</p> <p>○「役割を考えた話し方ができた。」「共通点や相違点を見つけ、分類したり整理したりして意見を理由でまとめることができた。」「グループでの話し合いを生かして、学級全体でもよりよい意見にまとめる話し合いができた。」「積極的に発言し、進行に協力することができた。」など、今日の学習で「できたこと」や「できるようになったこと」を視点に自己評価させる。これにより、言葉の力の定着や向上を実感させ、今後の学習の意欲につなげる。</p> <p>全</p> <p>○児童の司会により相互交流を進める。教師も加わり、本時のねらいに関わる評価をしている子どもを意図的に指名し、価値付けを図る。</p> <p>全</p> <p>○次時は、至誠大作戦を実行した後、単元全体を振り返り、本単元の最初から自分の力がどの位ついたか、話し合いの集団としての高まりがあったかを振り返る活動を確認し、意欲や見通しをもたせる。</p>